

## 第三者意見



株式会社日本総合研究所  
理事

### 足達 英一郎氏

御社グループは、2020年3月に策定された「新生『芝浦機械』長期ビジョン2030」で、グローバル製造業が直面する「気候変動と資源不足」、「人口構造の変化」、「テクノロジーの進歩」等のメガトレンドに卓越した技術革新で応え、社会的課題の解決と企業価値向上を両立することをめざすと表明されました。

一方、世の中全体に目を転じると、21世紀に入り、わが国の経済活動のなかで比重を大いに高めてきた自動車産業が「100年に1度の変革期」を迎えていると評されています。さらに、この10月、「2050年までに、温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、すなわち2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現をめざす」ことを、国は宣言しました。

このように、従来とは相当に異なる事業環境のなかで、ステークホルダーの利害に適切に目配りをしつつ、経営の舵取りを進めていかれることが、御社グループの社会に対する責任の本質であると改めて気づかされます。

技術革新と品質向上、適法調達やグリーン調達、従業員のダイバーシティ実現や安全衛生の拡充、地域社会貢献活動、環境マネジメントの強化は、それぞれが事業活動を進めていく上での礎となるものであり、それを疎かにすべきではありません。本報告書を拝読すると、特定の領域では優れた成果を上げておられることが分かります。

他方で、今後のCSR報告書の拡充の方向性として、「新生『芝浦機械』長期ビジョン2030」で挙げられた取り組み項目に関する進捗報告のウエイトを増やして頂くことを提案申し上げます。本報告書でも、「環境にやさしいプラスチックの開発を支える技術～持続可能な社会に向けた成形機カンパニーの挑戦～」や「レトロフィットで産業の礎を未来へつなぐ～長寿命化をめざす工作機械カンパニーの使命～」の内容

を大変興味深く拝読しました。脱炭素やサーキュラー経済への移行といった世の中の大きな方向性のなかに、御社グループの新たな事業機会や競争優位の手掛かりが存在しているという記述は大きな説得力となるものです。

2050年カーボンニュートラルに向けて、成形機や工作機械を使う顧客の温室効果ガス排出削減にトータルでどう貢献できるかが事業機会や競争優位の手掛かりになることは確実です。このためには、単にエネルギー効率の高い製品を開発、販売、納入するだけではなく、自ら発電する電力の活用といった創エネや蓄エネの視点やエネルギー効率を配慮した生産計画の立案といった省エネの視点から製品やサービスを提供することが価値を生むでしょう。さらには、3Dプリンター技術の進展とその普及スピードを、どのように事業機会として取り込むかという視点も求められるでしょう。さらに、従来扱ってきた樹脂や金属材料に替わる新材料への対応という視点も不可欠でしょう。

これらは、事業戦略上の課題であり、いままではCSRに関する課題や取り組みとは異なると理解されてきたかもしれません。しかし、「気候変動」というメガトレンドが、世の中のあらゆる活動に影響を与える状況となっているなか、BtoB企業の社会に対する責任は、社会課題を高い感度で捉え、製品を使う顧客のソリューションや価値創出に貢献することに収斂してきています。その意味で、事業ポートフォリオの再構築や「モノ+コト」ビジネスの収益化は、CSRの取り組みそのものだといえるでしょう。

御社は、長期にわたり腰を落ち着けて働く従業員が多いことが特徴だと本報告書のなかで述べられています。こうした伝統が今後も継承されるよう、「新生『芝浦機械』長期ビジョン2030」の実現に邁進され、それが社会に対する責任を果たす姿となることを祈念申し上げます。

社会的責任投資のための企業情報の提供を金融機関に行なっている立場から、本レポートを通じて理解した芝浦機械グループの環境・社会・ガバナンス側面の諸活動ならびにその情報開示のあり方に関し、第三者意見を提出したものです。このコメントは、本レポートが、一般に公正妥当と認められる環境報告書等の作成基準に準拠して正確に測定、算出され、かつ重要な事項が漏れなく表示されているかどうかについて判断した結論を表明するものではありません。

#### 「ご意見を受けて」

足達理事には貴重なご意見をいただき、ありがとうございます。

今回の報告書では、海洋プラスチックごみが社会問題化している中、当社のSDGsへの取り組みの一つとして「環境にやさしいプラスチックの開発を支える技術」について特集でご紹介しました。引き続き、SDGsで示された社会が抱える問題に対し、事業活動を通じて企業としての役割を果たし、持続可能な社会の実現に向けてさらなる貢献をしてまいります。

#### 本書へのご意見・ご感想

〒410-8510 静岡県沼津市大岡2068-3 芝浦機械株式会社 広報・IR部  
TEL(055)926-5030 FAX(055)925-6501 <https://www.shibaura-machine.co.jp/form/inquiry.php?i=i19>

また、ご意見をいただいた「新生『芝浦機械』長期ビジョン2030」に掲げている項目に関する取り組みについて、今後本報告書を通じてステークホルダーの皆様にお伝えできればと考えております。

今後も、私たち芝浦機械グループは、グローバル製造業が直面するメガトレンドに卓越した技術革新で応え、社会的課題の解決と企業価値向上の両立をめざしてまいります。

芝浦機械株式会社 広報・IR部